

第三師團旧第五師勤務隊恩歴

年月日	
概 要	<p>                     第三師團隷下各部隊より兵站勤務隊要員を差出し（三一、三二、三三）第五師                      勤務隊を編成す（三一） 松本中佐以下四百九十三名                      尔后上海吳淞第五師兵舎に於て兵站勤務に服す                      一連（三一、三二、三三）先発として内地飯還                      六八 全員飯還                      第五師兵站勤務隊は第三師團司令部内にありたるものにして司令部と完結済                      にして本人員は其の他の残留としてありたるもの                      （留守名簿整理済みなり）                 </p>

1789

第三四師團司令部（財政給水班）略

年月日	概 要
<p>昭五三二六 三三一</p>	<p>滿州東滿口陽警備中の水八師團部下各部隊より陸攻を以て軍醫中尉大由某以下一三九名は第三四師團司令部要員として 東滿總省綏陽出發</p> <p>支那江西省南昌到着四月一日第三四師團司令部財政給水班を編成せり 班は新に支那財政給水班の一隊（贛山軍區中尉以下四〇名）の配属を受け 出發準備完了と共に同年四月二七日南昌出發湘桂作戰に參加せり、出發時携 行せる資材の大略左の如し</p> <p>紅生瀝水杖 甲 二箱 紅生瀝水杖 丙 八具          丁 二具 換乘資材 八箱          消毒薬 四箱 一噸包生材料 四箱</p> <p>先づ行軍に依り一旦大治に集結同地に於て九野隊補充隊より歩兵高石兵長</p>



到着。雨夜駐留態勢に入り、同地に行う傍を防護給水に任じたり。

而して、同帰路、秋采の菜場の上にて、四月一七日敵襲を受け、班長、大田大尉（当時大尉に進級しありたり）を失いたるは遺憾の極みなるも、後任として、昭三、昭四、三九野坂大尉等任せり。

昭三、昭四

之より、昭昭一九、三三、三八鷲山中尉以下四り名の配属人員は原所處に後帰せり。兵三名を転入せられたり。湘桂作戦開始当時大尉に於て配属せられたる清野隊一組は二日下旬所處に後帰せり。

三

軍に於て、正江作戦を企圖せらるゝ、班の一部（栗野中尉以下二六名）は歩兵中二一七連隊に配属せられ、本作戦に参加し難むる状況下に於て、更く其の任務を完遂せり。

班主力は半隊に亘る全隊附近の整備し任むを終る、当房村出発に方り、師田司令、部歩兵中二一六連隊歩兵中二一八連隊に班の一部を配属せしめたり。

湘西作戦参加の為

当房村出発 全隊一東安一花橋一太田橋一雨雨橋を全て

五、二、六

6/8

1791

1792

六二一

夕麥子口(宝慶東約三〇軒)附近に前口(宝慶東約三十軒)附近に前庭  
同地に於て検査所を開設新に到着せる初年兵及返及者に對し検査を実施せり  
本検査に當り回帰熱の増発防疫を主とし兼ぬてマラリア原蟲の検査に努め  
たり却全員の被服被具の蒸気消毒(現製製セイロ使用)検血を実施せり被檢  
疫人員及成續左の如し

被検査人員

一カ町の

回帰熱スヒロヘータ保有者

無し

マラリア原蟲保有

三二名(保有者の五名は熱帯熱

にして他は三日熱なり)

更に芷江作戰に参加せりたる粟野中尉以下班ノ一部は六月二十五日泉所區  
に復歸せり

前記検査終了と同時に検査所を閉鎖

六二七

麥子口出發永豐を経て易俗河に至り河地に於て湘江を渡河岡山鋪を経て瀘頭  
鋪に到し

七一五

同地出發敵中突破作戰を敢行しつゝ自豐——大橋に至て八月六日江西省安義

26.9

1793

附近に進出せり此の商賈要請散の逸珠防變給水業務に任じたり

安養附近に進出後主力を以て軍防要給水隊の一部に抜力師田川浄化目的を以て兼此なる稷勤換設に任じたるも一名の異常者も無く無事終了せり一方此の一節を以て坪井街附近に給水所を開設一日約三〇〇名に対し湯茶の補給に任じたり

八一五

斯くして、安養附近出窓鏡川津所に於て終戦の報に接せり駐は九江に於て揚子江を渡河揚子江北岸道を安養一浦口に至る

九一五

謝家店へ浦口東北方約十料に到着一同時に集中營に入水り、  
湘桂作戦参加以来奮戦し謝家店到着損耗左の如し

戦死 一〇名

疾病死 三名

謝家の店兼中營に於て師田及在謝家店和人居留民の「マラリヤ検査換設」へ村田氏反心を主とし一節井出氏反心を實施し結核菌検査を実施し其の成績左の如し

「マラリヤ原蟲保有者

一五%

微毒菌時反心陽性者

一七%

結核菌

全員陰性

謝家店到着と共に晨に各隊に配属される班の一部は夫々原所屋に復帰せり。当所村出張に当り自動車班として班主力と別行動をとりたる村田曹長以下三名は

昭三二、三

独立自動車第九大隊に転属し外にオ一三三師団歩兵中隊第一大隊オ三九師団

歩兵中隊一連隊より夫々兵一名当班に転属

三、一五

着隊せり。

昭三二、四

南京下関地区に「コレラ」患者発生に接し之が帰国内病毒侵入防止の爲

浦口に検疫所を開設すると共に謝家店碼頭附近にも本検疫所を開設極力防疫

に努めたる結果遂に師団は該病毒の侵襲を蒙ることなくして南京下関地区の

「コレラ」終熄の報に接し一二月下旬前記同検疫所を閉鎖せり謝家店衆中隊

同前記の如し本務の傍ら復雑な難なる状況下に於て只管各種検疫業務の進捗

を図り内地帰還を躊躇しありたり。

昭三二、二〇

帰還が一歩として謝家店出張

一三三

浦口出發車送ニ依リ

一三五

上海到着

一三六

上海ヲ七東中管一元中支那野戦自動車、敵橋内ニ入りたり同地に於テ

一三九

病虎總隊の内地帰還の爲めの検疫を受ク

一三一

兵站勤務隊編成要員として同隊ハ但生下士官一、兵科兵五名計六名を転属せしめたり。

昭三、二七

班は上海兼中管間ニ於テ復員事ムの整理を終ヘたる後、軍艦運ニ乗船内地に向け上海出帆

三二〇

博多港に入港同地上陸同月同日復員式を挙行せり。



歩兵第三十六連隊履歴

年月日	概	要
昭四三、一	軍令陸甲才六号に依り縮成下令	
三、二〇	縮成完給	
三、三一	直隊長小川稯之助宮中に参内し軍便を拝受し優渥なる勅諭を賜ふ。	
四、三	甲支派遣のため大阪港出帆	
四、一三	漢口上陸	
四、一九	湖北省麻城界中館駅に進駐同地附近警備	
八、二五	漢口に進駐同地附近警備	
一〇、九	江西省南昌に進駐同地附近警備	
昭五、一、三、下旬	敵の冬期攻勢反裏	
昭五、四、二九	主力(才三大隊)を以て宜昌作戦参加、此間才三大隊は原駐地に在りて	
六、二四		
六、一八		
六、三〇	敵の夏期攻勢反裏	

623-

1797

昭五 六二四

一三三八

湖北省江陵县沙市に駐泊同地附近警備  
南目に帰還

昭天 一三五  
三九

才三大隊南作戦参加

三二四  
四二

才一次第江作戦参加

八一

八三

陸軍大佐佐々木源之丞監隊長に補せらる。  
安義に進駐同地附近警備

昭五 一三三  
二八

才二次第江作戦参加

才二大隊を以て、自四月七日至十月六日主力を以て自四月三日至八月九日

兼作戦参加

昭六 一三一  
二七

主力(才二大隊欠)を以て江北蕨隊作戦参加

才三大隊江南蕨隊作戦参加

昭五 一〇一  
一八

主力(才三大隊欠)を以て常德蕨隊作戦参加

陸軍大佐石川明連隊長に補せらる。

624

1798



歩兵才ニ一七聯隊

年月日	概要
昭和三十四	軍令陸甲才大号に依り歩兵才ニ一七連隊編成下令
三三〇	才四師團歩兵才三七連隊補充隊に於て歩兵才ニ一七連隊編成完結
三三三	適合大佐官中に参内し軍旗拜授慶運する勅語を賜う
四三	大坂港出帆
四二二	中華民国湖北省禮山県漢口上陸
四一八	河口鎮着礼山県黄安県、黄陂県附近の警備に從事す
五二	黄安県蘆山山附近の戦術
五一九	才三師團七里坪附近の戦術参加
五二四	閩支隊信陽附近の討伐
七	破駐のため中華民国湖北省礼山県河口鎮出発
八	中華民国江西省新建県西山葛村官署新建県附近の警備に從事す



昭天三三三 毛一六	才二次錦江作戦参加
一三九 二二二	贛江作戦参加
四三〇 八二九	浙贛作戦
昭六三一二 三二六	扛北鐵城作戦参加
五一〇 六二四	江南鐵城作戦
九一四 百四	樸河渡河
百二四 二二一	石岡市附近の戦斗
昭五二一五 一〇	常徳鐵城作戦参加
〇四二二一 〇五四三三	前記戦斗勤ムの外南昌附近の警備勤ムに從事す
四二四 一三三一	湘桂作戦参加
〇六一 四九	中華民口廣西省全境附近の警備に從事す
四一〇 六一〇	湘西作戦参加

26280

1802

六二一	六二七	六三二	六三三	六三六	六三七	六三九	六四一	六四二	六四三	六四四	六四五	六四六	六四七	六四八	六四九	六五〇	六五一	六五二	六五三	六五四	六五五	六五六	六五七	六五八	六五九	六六〇	六六一	六六二	六六三	六六四	六六五	六六六	六六七	六六八	六六九	六七〇	六七一	六七二	六七三	六七四	六七五	六七六	六七七	六七八	六七九	七八〇	七八一	七八二	七八三	七八四	七八五	七八六	七八七	七八八	七八九	七九〇	七九一	七九二	七九三	七九四	七九五	七九六	七九七	七九八	七九九	八〇〇	八〇一	八〇二	八〇三	八〇四	八〇五	八〇六	八〇七	八〇八	八〇九	八一〇	八一	八一二	八一三	八一四	八一五	八一六	八一七	八一八	八一九	八二〇	八二一	八二二	八二三	八二四	八二五	八二六	八二七	八二八	八二九	八三〇	八三一	八三二	八三三	八三四	八三五	八三六	八三七	八三八	八三九	八四〇	八四一	八四二	八四三	八四四	八四五	八四六	八四七	八四八	八四九	八五〇	八五一	八五二	八五三	八五四	八五五	八五六	八五七	八五八	八五九	八六〇	八六一	八六二	八六三	八六四	八六五	八六六	八六七	八六八	八六九	八七〇	八七一	八七二	八七三	八七四	八七五	八七六	八七七	八七八	八七九	八八〇	八八一	八八二	八八三	八八四	八八五	八八六	八八七	八八八	八八九	八九〇	八九一	八九二	八九三	八九四	八九五	八九六	八九七	八九八	八九九	九〇〇	九〇一	九〇二	九〇三	九〇四	九〇五	九〇六	九〇七	九〇八	九〇九	九一〇	九一一	九一二	九一三	九一四	九一五	九一六	九一七	九一八	九一九	九二〇	九二一	九二二	九二三	九二四	九二五	九二六	九二七	九二八	九二九	九三〇	九三一	九三二	九三三	九三四	九三五	九三六	九三七	九三八	九三九	九四〇	九四一	九四二	九四三	九四四	九四五	九四六	九四七	九四八	九四九	九五〇	九五	九五二	九五三	九五四	九五五	九五六	九五七	九五八	九五九	九六〇	九六一	九六二	九六三	九六四	九六五	九六六	九六七	九六八	九六九	九七〇	九七一	九七二	九七三	九七四	九七五	九七六	九七七	九七八	九七九	九八〇	九八一	九八二	九八三	九八四	九八五	九八六	九八七	九八八	九八九	九九〇	九九一	九九二	九九三	九九四	九九五	九九六	九九七	九九八	九九九	一〇〇〇
中華民国忠義救国軍補附隊の警備に從事す。		發註の爲宝塚原老木橋出發		中華民国江蘇省江浦泉浦口着同郷に集結		内地帰還の爲中華民国江蘇省江浦泉浦口発		中華民国浙江省上海吳淞着		上海出帆		蕨見島港上陸（主力）一部は二月三日佐世保上陸		部隊長官氏名		初代		自任		陸軍大佐		藤合 昇五		二代		天三		長野 深二		三代		六八		木集 有次																																																																																																																																																																																																																																								

兵力

内地（現地）除隊召集解除者数	三、一七四名（内解散一〇〇名）
入院患者数	三二八名（二名）
生死不明者数	七三名
死亡者数（創立以来）	二、三〇二名

以上



第三師團歩兵才三二八連隊略歴

年月日	概略
昭四三一一	歩兵才三一八連隊縮成下令
三二〇	縮成完結
三三三	連隊長高橋大佐官中上参内シ軍旗拝授優渥なる勅語を賜フ
四三	中支激戦の爲和栗山に戍出発
四四	大阪港出發
四一四	湖北省黃陂果陽灘上陸
四一四	湖北省黃陂果陽新卅附近警備
四二	江西省南昌縣南門附近陸軍回地附近警備
昭五六	南昌附近反動作戰に参加
六二二	才二次錦江作戰に参加
七六	浙贛作戰に参加
七八	

1805

昭六五 一 七、一	軍令陸甲才三六号に依り編成改正下令 編輯改正完結
七	南昌東南漢河漢河依露に参加
五、六、二	軍令陸甲才一一九号に依り編輯改正下令
一、九、一、三、一	編輯改正完結
四	湘桂作戰参加の爲南昌東南附近出發
二、四	長沙衡陽桂林攻露露に参加
一、三	湘桂作戰終了
昭〇、三、三	標冊附近の整備
五、三	会県附近に發駐同地附近整備
一、六	南京附近に發駐同地附近に於て上剛待期
昭三、一、三〇	内地帰還の爲南京出發
〃二、一	上海港出帆

732

昭三、三四

佐世保港上陸  
偵員完結

1807



昭五、六一	縮成改正下令
縮成着手	
一、三一	縮成完結
昭五、	軍令陸甲ヲ十八号に依り
三、一〇	縮成改正下令
一、	縮成着手
四、三〇	縮成完結
行 動	
昭五、四三	中口液産のため大坂港出發
四、一三	中華民国湖北省漢口梁漢口上陸
四、一五	湖北省黄陂県黄陂到着同郷附近の警備
六、一〇	才一写作歌へ湖北省七里壘附近戰鬥に参加
一〇、三五	復讐のため湖北省黄陂県黄陂出發
二、一〇	江西省南昌県南昌到着同郷附近の警備

76250

昭天 三、一四 四一	才一、次錦江作戰（江西省高安附近の戦斗）に参加
昭三 一、一八 一、一九	才二、次錦江作戰に参加
五、二九 八、二九	湘贛作戰（贛川貴溪附近の戦斗）に参加
六、三〇 二、三八	江北殲滅作戰（江西省泉塘附近の戦斗）に参加
四、二七	湘桂作戰参加のため江西省南昌を出発
四、二七 二、二二	湘桂作戰に参加
昭五、二、三	広西省全県全附近に到着同地附近の整備
昭五、五、一七	湘西作戰参加のため広西省全県全附近出発
昭五、五、一七 六、一七	湘西作戰（宝慶芷江附近の戦斗）に参加
六、一七	湖南省宝慶県六里橋に到着同地附近の整備
六、二〇	安義に向う敵中突破作戰に参加のため湖南省宝慶県六里橋附近を出発
六、二二 八、二六	安義に向う敵中突破作戰に参加

636

1810

八七	江西省安義縣仁首附近に到着
八一	河口附近集結のため江西省安義縣に仁首に到着
八一四	停戦沿書発布
八一七	江西省黄梅縣小池口附近到着
八二五	復員下令
九一	安徽省安慶縣安慶到着
九二	停戦協定成立
九一五	江西省六合縣謝家店に到着
九一九	東陽縣傘岡江蘇省六合縣謝家店附近に集結
昭三 一三二	内地帰還のため江蘇省六合縣謝家店出発
一三〇	江蘇省上海吳淞附近到着
一二三	上海港出発
昭三 一三八	高岡県博多港上陸 部隊長以下二九六名博多に於て除隊召喚解除す

第三山師團編修隊

(編修番号六八四八部隊)

年月日	概要
昭四三ニロ	編成月日
昭四	編成地 大阪 軍令陸甲才六号に依り
三二一	編成下令
三二b	編成完結
昭六	軍令陸甲才三六号に依り五月一日編成改正(復帰)下令 編成完結
七二一	編成完結
昭三〇	軍令陸甲才十八号に依り三二b 編成改正下令 編成完結
昭三〇	編成完結
昭一三	渡支 年月日 渡支当初駐屯地 湖北省黄陂派黄陂

638r

1812





第三四師團輜重隊略歴

陸軍輜重中佐 知原豊城

年月日	概 要
自昭和三十四年六月三十日	部隊名 旧名輜重兵才三四師團 復員完結
昭和三十四年六月三十日	第三四師團輜重隊
昭和三十四年六月三十日	編 隊 号 樺才六八四九部隊
昭和三十四年六月三十日	陸軍輜重兵中佐 知原豊城
昭和三十四年六月三十日	陸軍中佐 (昭和三十四年六月三十日) 森 三九
昭和三十四年六月三十日	縮減完結の状況 大阪に於て才三四師團縮減完結
昭和三十四年六月三十日	兵站自動車才四三中队に対し軍令陸甲才一五号に依り縮減改正(復員)下令 六、二〇縮減改正(復員)完結

6400

昭六三	<p>天站自動車才四三中隊を増加せられ才四中隊とす。中隊長、陸軍中尉 角谷俊一</p>
昭六五	<p>編成改正に據り才二中隊を才六一師團輜重隊（南京）に転出す。才四中隊を 才二中隊とす。</p>
昭六六 五三〇 七一	<p>軍令陸甲才三六号に依り編成下令 編成着手 編成完結</p>
昭六六 四五	<p>行動の概要其の日誌</p>
昭六六 四二五 四二六	<p>大坂港出帆 中華民口湖北省漢口果漢口上陸 漢口附近の警備</p>
昭六七 四二七 四二八	<p>漢口出発 同日湖北省黃岡果倉子埠着 倉子埠及陽羅附近の警備 右警備期間一部を以て七里坪附近の戦斗及才三十四師團五号作戦に参加</p>

641

1815



昭九、四二五	作戰参加の為牛行出発
四三九	湖北省大冶県大冶着
四二五 二九	湘桂作戰参加並推駐の爲の兼中行動
四三〇 二三	主力を以て湘桂作戰に参加
五一八	行動の概要
六四	大冶出発
六一九	新市通堀
六三三	長沙村岸着
七一	〃 〃 〃 〃
七一七	島嶼橋着
七一八	島嶼橋出発
七三	長沙通堀
八一	醴陵通堀
八二	岳陽 〃
八七	蓮花 〃
八三三	茶陵 〃
	宅仁通堀

643

1817

18

九三	米陽出飛
九三	幣學着
一八九	り出飛
一五三	初陽通閣
百二十八	乘安
二二三	本西省全果車頭着
陽五二、四 百五三	本西省全果車頭附近に在りて全果東北才地区の整備
陽五、五、二一	作設参加並通駐の為全果車頭
二〇、五、二二 六、一〇	主力を以て相商依頼参加
五三二	行動
五三二	車頭出飛
五三一	全果通閣
五三三	新寧南方山嶽通閣
五三四	新寧南方約入許着
五三五	反飛
五三七	全果通閣

76446

五二八	全界石山岡村着
六四	石山岡村出巻
六六	東安通巻
六二	鴨波口(安慶西南ニヨ軒)着
昭百 六一 六一	主力を以て安慶に向う。敵中突破作戦に参加
六三	鴨波口出巻
七六	湘原通巻
七八	長沙原易家通巻
七一五	易家港出巻
七三二	劉陽南方川外市通巻
七三〇	萬平通巻
八四	奉新通巻
八五	贛山陝 (安慶西方八軒)着
昭百 八一 八一	贛山陝出巻
八二九	九江着
八三九	安慶着

645

中文録

九一八	江蘇省六合界江家市橋着
昭三二、一、二二	江家市橋出港同日江浦泉浦口着
一、四七	浦口出港
一、三〇	上海着
二、二四	上海出帆
二、二六	梅夏上陸 同日復原完結

C181...

1820



中支米 164

とら

第三回師団野戦病院累丁

陸軍少佐 香場新一

年月日	概	要
昭四、五八 一八六三〇 二八七一 三三三〇	才三四師団才一野戦病院 才三四師団野戦病院 部隊長官氏名	初代 陸軍少佐 肥後 研吉 二代 大尉 佐藤 光世 三代 少佐 香場 新一
昭四、五一 五八	編成完結の状況 大阪歩兵才三七連隊に於て編成に着手 完結才三四師団長に報下に入る	行動の概要 大阪出發
五三〇		

7647

1821

六八  
六一四

廣口上陸

湖北省岐亭界岐亭着

岐亭才一野戦病院開設

昭四六一五  
百二八

湖北省岐亭に於て開設し他に患者療養所二を開設す

尚健村才一野戦病院

昭五三一五  
七六三

江西省南冒界尚健村に於て開設し此の尚健村患者療養所を開設す

南冒才一野戦病院

昭五三一五  
七六三

江西省南冒界南冒に開設し安義に才二半田を置場 長江渡に患者療養所を開設す

編成改正

昭七七一

才三四師団才一野戦病院を才三四師団野戦病院に編成改正せらる

南冒野戦病院

昭七七一  
五四三

開設す才二半田患者療養所の開設(4)の如し

湘桂作戦参加

師団の作戦参加と共に野戦病院は昭一九四二七南冒出發作戦中に発生せる傷

昭五五省	<p>病者を収容しつゝ、広西省全県に到る、 反転す。</p>
停戦後の行動	<p>停戦時湖业省九江に在り、江蘇省、浦口附近に兼中を命ぜられ、 江蘇省六合縣謝家港に到着、同地に於て野戦病院を開設、浦口、葛塘集に 患者療養所を開設す。</p>
九、一五	<p>上海に向い出発</p>
昭三、二一九	<p>上海着</p>
一、二四	<p>リハライー、No. 二五号に乘船</p>
三、四	<p>博多港上陸</p>
三、九	<p>博多箱崎小学校に於て復員式終了</p>
二、一〇	<p>完結す。</p>
五、六	<p>兵 力</p>
	<p>復員式終了時総員</p>
	<p>一、〇〇七名</p>

	生死不明者 六名
	入院患者 一三一名
	死亡者（昭三、三、百現在） 三〇〇名
	其の他必要なる事項
	将校一、外四名は現地に於て除隊す。

6500

1824

第三四師団病馬廠要

昭通五八		年月日	
大阪市騎兵才田連隊補充隊に於て編成を完結す。		廠	
1. 病馬名 (固有名) 才三四師団病馬廠		要	
(通称名) 才三八八五四部隊			
2. 廠長 陸軍少佐 今野 恒 久			
3. 編制 人員			
備考	一	廠長	
	三	附將校	
	兵	准士官	
	一	兵科	下士官
	一	經理	
	一	生任	
	五	医録	
	三〇	兵科	兵
	二	生任	
	四五	計	

0881

1825

五五三  
七

支那派遣の海大阪港出帆  
 中華民國湖北省黃陂縣黃陂に於て病馬蘇業等五州設け傷病馬の收容治療に依

部隊	名 称		備 考		備 考	
	名 称	買 数	名 称	買 数	名 称	買 数
隊	隊医行李	三組	食料検査行李	一具	三八式騎銃	五
	化兵隊医行李	一具	馬診療自動車	一輛	隊医携装	四
隊	檢疫隊医服	一組	疾蹄自動車	一輛	馬療服	五
	軍馬購買行李	一組	自動貨車 乙	二輛	英帶蹄鉄工員	一五
隊	軍馬行李	一組	郵政蹄鉄工員	二組		
隊	單檢 治療箱	一具				
摘 要						

詳す。

三、  
江西北、南昌市に現駐を完了し傷病の収療後送、跛脚、軍用動物の検査、獣  
医資本の補給及自製、牛乳並向用家畜（食用）の増産、飼育補助馬の飼養管  
理、幼駒の生産に従事す。

尚同地区附近の警備をも担任の停軍並に軍用馬の教育訓練に監視せり。

更に同省安義原安義（南昌西南約八〇軒）に安義支隊（長以下一三名）を派  
遣し主として同地区附近の傷病馬の收療後送に任せしむ。

爾迄、昭一丸、四、未に至る、四年五月間引籠ぎ任務を継続之か完遂に努めた  
る結果前期の成果を改めたり。

天三

廠長の興勤飛令せらる。

転出 陸軍隊医少佐 今野 福 次

新補 大尉 山下 正 亮

七五二七

主力を以て浙贛作戦に参加す。

鷹潭、贛溪、臨川等に於て病馬協を開設

653

中夜録 55

八三八	漸獲作戦終了
八四一七	原駐地（南昌）に帰還 廠長一與勤発令せらる
八四一七	轉出 陸軍医大尉 山下正亮
八四一七	新補 陸軍医中尉 倉田一良
五一	才六五師団病再級の補成を完結す
九二七	常徳縣城作戦に参加の寫真写取發班を編成 （小沢隊医中尉以下一四名）派遣す
一三三〇	湖南省益利県永安渡に於て漢河作業中敵機の銃雷により戦死一
一三三〇	部隊戦力強化の爲増加要員として才五十八師団野戦病院より兵二〇名転属し各種実践的訓練を実施し戦力増強を図り
五三二〇	部隊は湘桂作戦に参加の爲業務及諸般の施設を征部隊に引継ぎ南昌を出發大
四二九	池に集結す該地に於て補充及診療に從事
三三一	大名出發
五一九	新瀋河を渡河し遠藤山系に據り敵を襲撃しつゝ一隊南下霞嶽港附近に於て湘



江を渡河岳嶽山の攻略に参加す。

岳嶽山南側部隊に位置し業務を肩代し又軍需品の輸送等に在りたり。

七一四 長沙に至り醴陵、萍鄉、贛北、茶陵、安仁に至る。

九二二 耒陽に到着す。此の間軍需品の輸送並に患者輸送に協力しし。茶陵附近に於

て便衣隊の襲撃により兵一戦死せり。

耒陽に於て業務を肩代診察に従事し又三師団より引継の重症患者を衡陽に後送

し。

九二八

内地出發常々攻略に参加内地附近に於て診療隊医資材の補給に任じ柏房を經

て湘江北岸道を初陽、東安に至る。湘西白砂、新化、溆浦に十一、三〇到着直に崩

潰傷病馬の収養後並に隊資材の補給に任す。

湘桂作戦参加当初に於ける部隊補給の大要に在りし。

備考	一	長	廠	下士官 兵 合計 摘要
	三	技附		
	二	士	進	
	一	科	兵	
	一	理	至	
	一	止	血	
	七	医	隊	
	五	科	兵	
	二	止	血	
	二九	計		

昭和三十一  
九二〇

九月一八日米陽に於て補充員兵一回到着掌揮せり

引継ぎ全果附近の警備に任ずると共に本然の任務履行に外縁医資材の自製（  
蹄鉄）補充等の管理、教育訓練に勵進せり

補充要員として一月一八日、増援一、三月八日兵九名到着せり

引継ぎ全果附近の警備に在りると共に本然の任務履行の外縁医資材の自製（  
蹄鉄）補充等の管理、教育訓練に勵進せり、補充要員として一月一八日、増  
援一、三月八日兵九名到着せり

（五二）

湘西作戦参加の爲駐留地赤南運を出発

新寧に向い行動状態、前區中反戦を命じり、再か全果を至て東安一花橋

孝子口（宝慶東三〇軒）附近結集して永豊一易佑河に至り竜頭舖に集結す

六一四

竜頭舖に於て支隊にて收購し主力は歩兵ヲ二一七連隊に配属せし川同地を出  
発敵中突破作戦を敢行しつ、省豊大橋を至て八月六日江西省安義附近に進出  
せり

六一三

安義附近を出発、九江に向い前區中八月十日德安附近に於て待戦の大詔を奉

656

1830

載す。

湘桂假戦行動発起より終戦時に至る間に於ける流馬破用回数二四回、支敵を激怒すること一五回、其の他復助收容班同診療班同換装班、同被弾班等の激盪及被弾の援助、補給馬の輸送援助被化拜何れも相当良好なる実績を収めたり又勅隊編成以降に於ける傷病馬の收養頭数五千数百頭に及べり。

八三三

九江北岸に渡河揚子江左岸道を安慶和県、浦口を至り九月一六日江蘇省大会果柳子王村へ浦口東北約一リ所に到着し奥中營に入れり、同地に到着後は復雑至難なる状況下に於て復員業務の遂行を準備

昭三、一、二三

内地帰還の爲め集結地柳子王村を出発二五日浦口を出発再行により上海江灣東兵舎に、二七日到着せり。

二七

諸検査並に検疫を終了し特別輸送船許りに乗船八日上海港を内地に向い出帆す。

二一〇

滿洲果博愛港に入港同地上陸、一七三日復員式を挙行し茲に復員を完結せり。

復員時に於ける参人員（二月五日現地）

号	備	一	長	敵	准 下 士 官
		二	技	附	
四 遺骨持帰還数 八柱	三 元 七 一 三 （第隊編成以来のもの）	七	并兵	兵	計
		一	附技		
		三	理至		
		三	生征		
		八	医獣		
		四八	并兵		
		一	生征 并兵		
		七 四			

支外

第四十師團司令部

年月日	概 要
昭和大三〇 八一	<p>軍令陸甲ヲ二十一号に依り編派下令 初代師團長に陸軍中將大谷直次郎親補せらる 善通寺師管内に於て左の編編派定結す</p> <p>       第四〇師團司令部        第四〇歩兵        歩兵二三四連隊        歩兵二三五連隊        歩兵二三六連隊        騎兵第四十        山砲兵第四十        工兵第四十連隊        輜重兵第四十連隊     </p>

7659

1833

1833

八	<p>昭二四、五、上旬 中平政庁の爲に出港出帆 同月中旬中平政庁湖北省武昌に上陸す 武昌城守司令部は爲守騎山天地区の警備を才三三師団と交代繼承し師団司令部は爲守に依置す</p>
一三 一三 六	<p>昭二四、四、より 才四、十、師団 兵務勸務隊 才一、野戦病院 (野戦病院) 才三、 (野戦病院) 才四、十、師団 病室 廠</p>
一五、一	<p>昭二四、五、一 才二、次、九、官山作戦陸水作戦を実施す 主力を以て官山作戦に参加す</p>
一三、九	<p>昭二四、五、九 官山作戦を実施す</p>
一三 一三 六	<p>昭二四、五、一 才二、次、九、官山作戦陸水作戦を実施す 主力を以て官山作戦に参加す</p>
八	<p>昭二四、五、一 才二、次、九、官山作戦陸水作戦を実施す 主力を以て官山作戦に参加す</p>

~660~

上  
下  
は  
ら

百九	主力を以て才一次長沙作戰に參加す。
百三	才二次長沙作戰に參加す。
百四	一部を以て浙贛作戰に參加す。
百八	一部を以て大別山作戰に參加す。
百二	主力を以て江北及江南作戰に參加す。
百一	軍令陸甲才三十六号に依り左の通り改編縮少せらる。
	第四十師師司令部
	歩兵才二百三十四連隊
	歩兵才二百三十五連隊
	歩兵才二百三十六連隊
	才四十師田士兵隊
	通信隊
	糧食隊
	野戰病院
	病馬隊

7661~

1835

七、	<p>独立混成隊第十七旅団と岳州、長安、桃林地区の整備を交代し更に監視、石首華容地区の整備に任ず。</p>
一、四、 一、三、	<p>一部を以て常德作戦に参加す</p>
昭五、四	<p>主力を以て湘桂作戦を一次を二次及南郊奥漢打撻作戦に参加す</p>
八、	<p>師団長参謀本部附に補せられ折に陸軍中将宮川清三師団長に親補せらる。</p>
昭五、四	<p>廣東西南方地区に集結同地附近の整備に任ず。</p>
七、六、	<p>三兩作戦に参加す。</p>
七、	<p>贛州を出発贛江に沿う地区を北上し南昌南方地区に集結す。</p>
八一五	<p>同地に於て終戦の大命を拝受す</p>
八一八	<p>軍令陸甲カ百十六号に依り復員下令</p>
八、下旬	<p>南昌出發九江及揚子江左岸地区を經て九月中旬蕪湖に集結す。</p>
昭五、二、中旬	<p>遂次馬鞍山に移駐す。</p>
三、二、下旬	<p>南京に移駐同地に於て勞役に服す。</p>

76620

2881

1836



	<p>五八 五七 五三</p> <p>歸口の爲南京出飛 上海出帆 梅子上陸 復員完結</p>
--	--

甲支外  
168

8881

~663~

1837